経済史概論Ⅲ　(Modern Economic HistoryⅢ)

科目ナンバリング　ECH-103
選択　　2単位

野澤　丈二

1. 授業の概要（ねらい）

TAEP（帝京アジア交流プログラム）留学生向けの科目で、原則として英語を使用言語とします。

この授業では、主に15世紀から20世紀までを対象として、国と国・地域と地域などの相互の繋がりや影響に主眼を置いて、経済史をより国際的な視点から学びます。経済の三要素といわれるヒト・モノ・カネに加えて、そのほかさまざまなな要因（制度・情報・技術・宗教・教育・地理・環境など）も考慮に入れながら、今日のグローバルな世界の成り立ちについて学びます。

2. 授業の到達目標

① 経済史とはなにかを説明て゛きる。
② 経済的に不均衡な世界の成り立ちを、その歴史的背景から説明て゛きる。
③ 過去や歴史を知ることて゛、現在生きている状況を相対化し、複眼的な思考を養う。

3. 成績評価の方法および基準

平常点:出席、授業への積極的な参加、授業内課題（30%）、期末試験（70%）
課題や試験の内容については、授業の様子を見たうえて゛判断します。

4. 教科書・参考文献

参考文献
・Robert C. Allen　『Global Economic History : A Very Short Introduction』　(Oxford UP, 2011)

5. 準備学修の内容

授業で指定する予習資料を事前に必ず読んでくること。

現在、「ク゛ローハ゛ル」な視点から書かれた歴史書か゛、一般向けにも多く刊行されています。書店に立ち寄る機会があれ ば、ぜひ関連書棚を眺めてみてください。もちろんネット上で閲覧できる書評なども活用してください。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション
【第2回】　歴史学とはなにか、経済史とはなにか?
【第3回】　授業内課題①
【第4回】　西欧の海外拡張
【第5回】　大いなる分岐
【第6回】　産業革命
【第7回】　授業内課題②
【第8回】　ドイツとアメリカ
【第9回】　インドの挫折
【第10回】　南北アメリカの比較
【第11回】　授業内課題③
【第12回】　アフリカ
【第13回】　日本のキャッチアップ
【第14回】　ソ連と東アジア
【第15回】　まとめと試験